



八幡市民マラソン大会 京都府トラック協会新年祝賀交歓会 児童虐待防止講演会 初春のつどいふれあい健康ウォーキング 松花堂初釜会

たじま新聞

京都府の予算要望・政府要望 子ども文化祭 都道府県議会議員研究交流大会 八幡市商工会賀詞交歓会

【プロフィール】昭和47年9月生。●[平成3年]平安高等学校卒業。三菱自動車工業(株)京都製作所入社。同社サッカー部(現・浦和レッズ傘下チーム)に所属。●[平成8年]同社退職。龍谷大学経営学部入学。●[平成19年]衆議院議員公設第一秘書。●[平成27年]八幡市議会議員初当選。●[平成31年]京都府議会議員初当選

【現職】●京都府議会 総務・警察常任委員会(委員長)、安心・安全な暮らしに関する特別委員会。八幡市在住で妻・長男(大学生)・長女(大学生)・次男(高校生)・次女(中学生)の6人家族。

京都府議会議員
田島よしみつ

あたたかい京都づくり 実感予算 1兆604億9,900万円

令和7年度当初予算は、原案のとおり可決成立し、令和6年度2月補正予算と令和7年度当初予算で1兆604億9,900万円。府政の羅針盤となる京都府総合計画に基づき「安心」「温もり」「ゆめ実現」の3つの視点から「あたたかい京都づくり」を実感するために必要となる予算を編成しており、その一部をご紹介します。

全ての営みの土台となる「安心」

子どもの心の診療ネットワーク事業費

発達障害診療体制の再構築により、初診待機期間を短縮。初診待機期間を最大9ヵ月から約1ヵ月まで縮小。

1800
万円

京都版CDC設置検討費

全国初

府市連携

国立健康危機管理研究機構と協力し、西日本の拠点としての機能を持つ組織を目指す。京都府と京都市が連携し、常設の専門機関を立ち上げ、府内の大学や研究機関と連携し、府内の感染症の実態を把握・分析。

100
万円

子どもたちを育み、絆を守る「温もり」

私立高等学校あんしん修学支援事業費

私立学校の教育条件の維持・向上、保護者の教育費負担を軽減。家庭の経済状況に関係なく、私立高校生が安心して勉学に打ち込めるよう制度を拡充(R6～)。

32億
6500万円

妊娠・出産・子育て総合相談体制整備事業費

府市連携

府市連携で窓口を一本化し、24時間365日受付体制を整備。府・市4つの相談窓口を統合することで相談受付体制を強化。

1000
万円

先天性代謝異常等検査費

府市連携

府内医療機関で新生児マススクリーニング検査の実施体制を強化。新たに2疾患(重症複合免疫不全症(SCID)、脊髄性筋萎縮症(SMA))を公費検査項目に追加。

3000
万円

農林水産業人材確保育成戦略事業費

府内における農林水産業の人材確保・育成を推進。担い手確保のため、学生等を対象とした農林水産業の分野横断型就業体験会を開催など。

1900
万円

災害時学校支援チーム創設事業費

災害発生時に学校教育活動の早期再開に向けた支援体制を構築。京都府災害時学校支援チームを創設。

100
万円

避難生活環境改善事業費

災害発生時における避難生活の環境改善のため、広域支援用の資機材等を確保。トイレ、キッチン、ベッドの適切な配置を推進するため備蓄体制を強化。

1億
4400万円

おもてなしのまち京都あんしん見守り事業費

府民の安全・安心を確保するため、事案発生時の対応力を強化。繁華街等に街頭防犯カメラを設置(50台)。自転車による取締小隊(Be-Unit)の体制を拡充。

500
万円

希望や活力の源泉となる「ゆめ実現」

金融・経営一体型支援体制強化事業費

厳しい経営環境にある中小企業の多様なニーズに対応するため、伴走支援体制を強化。

5億
6000万円

京都次世代半導体産業推進事業費

企業や大学、ベンチャーキャピタル等が集まり、新技術や製品を生み出すエリアを目指す。

1500
万円

文化の心 次世代継承事業費

伝統文化・生活文化に根付く「文化の心」を次世代に継承。

4500
万円

京都駅周辺エリアまるとゲートウェイ事業費

駅周辺を京都らしさ溢れる玄関口として、府域への誘客を推進。

1億
5900万円

きょうとまるごとお茶の博覧会開催費

万博で京都を訪れる国内外の人々に京都の茶文化を発信。

8200
万円

【管外・管内調査】 総務・警察常任委員会

11月23日

児童虐待、外国人住民支援、ドローンパトロールなど、 岐阜・愛知・富山の先進事例を視察調査。

京都府議会の総務・警察常任委員会の管外調査を実施し、岐阜市・こどもサポート総合センターを訪問。岐阜県、岐阜県警、岐阜市、岐阜市教育委員会の機関が同居し、連携を密に児童虐待対策を実施。情報共有や同行訪問を迅速に行い、重篤なケースの見過ごしを防ぐなど、長所を最大限に生かされていた。

岐阜県庁を訪問。新庁舎整備で「県民の暮らしを守る」「地域の魅力を発信する」「環境負荷やライフサイクルコストを低減させる」を基本方針に、県内各界各層の代表者や学識経験者から幅広く意見を聞き、パブリックコメントや県民説明会を十分に行い、議会の理解を得る中で整備された。新たな岐阜県のシンボルとして、幅広い県民の利活用を進めている。

愛知県・豊田産業文化センターを訪問。外国人の住民が地域で交流を図り、日常生活に必要な日本語能力を習得できるよう「とよた日本語学習支援システム」を構築。外国人居住者は、ブラジル、ベトナム、フィリピンなど約28,000人。豊田市国際交流協会では、文化的な違いを理解し、互いの違いを認め、誰もが暮らしやすい多文化共生の街づくりを推進し、「と

よた日本語学習支援システム」の運営も担っている。

NPO法人トルシーダを訪問。外国人の子どもや若者が当たり前前に学べ、活躍できる社会づくりを目指して、日本語教室や進路支援などを実施。今後、京都府でも外国人労働者の増加が見込まれ、多文化共生のための日本語教育支援を行政が支援するときに来ると思われる。外国人労働者の受入れは国の施策であり、多文化共生施策に必要な経費は国で予算を確保するべきだと思った。

富山県富山市の富山県庁を訪問。「県庁オープン化戦略」で、人材育成、職員の意識改革・業務効率化、ウェルビーイング経営をされ、公務員の人材の確保や仕事のやりがい創出に繋がっているとのこと。

富山県警察機動センターを訪問。交通機動隊や機動警ら隊の初動対応力や機動力の強化に繋げる活動拠点。全国初ドローンパトロール隊は容疑者追跡、行方不明者捜索、クマの追尾などに活用されている。

今回の調査で学ばせていただいた内容について、京都府議会に持ち帰り、京都府における施策の充実に向けてまいります。



舞鶴の水上警察で密猟の取締りや海難事故救助や 福知山で廃校Re活用プロジェクトなど取組を視察調査。

1月18日

京都府議会の総務・警察常任委員会の管内調査を実施。舞鶴警察署では、日本海の水上警察で、密猟の取締りや海難事故の救助活動について調査。職員の人数不足で船舶免許保持者の確保が課題で、水上の安心・安全を維持するためにも早期の人材確保は重要であると考えます。

福知山市では、廃校Re活用プロジェクトの推進について調査。福知山市の取組は全国行革甲子園で最優秀賞を受賞されており、人口減少、少子化の中、16校の廃校のうち10校の利活用を実現されている。

S-LABが利活用されているスポーツ施設を現地視察した。地域住民の理解を得るために、地域要望を100%条件に反映して公募し、利活用のプロポーザルを行われた。応募の多くは福知山市の皆さんであり、地元の方々が地域の活性化に取り組まれていることになる。

人口減少、少子化の波は府内でも課題となっているので、府内の市町村での学校の統廃合などで廃校が発生すると思われる。福知山市の取組が、良い成功事例になると思います。

地域の活動など

児童虐待をなくすために

八幡市児童虐待防止講演会に参加。認定NPO法人児童虐待防止協会副理事長臨床心理士白山真知子先生の講演で、「虐待はなぜ起こるのか?一般的な要因の複合的なもの」と考えられ、気づきになりました。

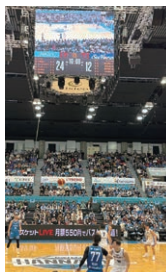


八幡市消防出初式

八幡市消防出初式が八幡市立男山中学校で挙行。八幡市消防団、女性防火推進隊、消防本部職員の皆さまが入場行進。市長、消防団長からの訓示、功労者表彰、来賓祝辞などの出初式でした。消防関係者の皆さまには、日頃からのご尽力に感謝し、地域の安心・安全にお力添えを賜りますようお願いいたします。

京都ハンナリーズを応援

京都のプロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」を支援する議員連盟があり、議連の観戦日にかたおかアリーナに応援に駆けつけました。京都ハンナリーズ VS シーホース三河の試合で、終始ハンナリーズがリードし、91対70でハンナリーズの勝利。観戦も面白く、観客動員も4,000人以上で盛り上がっていました。



京都府議会 ちゃんねる

京都府議会の活動や、議長による定例記者会見の様子などを配信



日々の活動をブログで報告

田島よしみつ で検索

[ホームページ] <http://tajimayoshimitsu.com>
[ブログ] <http://ameblo.jp/tajima1972>

田島よしみつ 公式LINE

田島よしみつの府議会議員の活動や、府政のお知らせをお届けします。

府政、暮らしのご相談は

京都府議会議員
田島よしみつ まで

TEL 075-982-1482

FAX 075-982-1492

〒614-8362 八幡市男山美桜5-29-102 (事務所)



令和7年2月定例会
一般質問
令和7年2月21日

大阪・関西万博の知見や技術が社会課題の解決に。
京都の文化・環境・産業・観光、地域に連携した取組や
万博来場者を京都へ呼び込む取組に期待



実際のパビリオン・イベント施設が再現され、会場外からでも大阪・関西万博を体験することのできるパビリオン万博が実施されます。

私は、地域経済の活性化や観光促進、国際交流の促進など、多くの期待が寄せられ、万博で得られる知見や技術が今後の社会課題の解決に繋がることを信じています。

京都府は「大阪・関西万博きょうと基本構想」の「緒につくろう、京都の未来（～伝統と革新で拓く～）」の全体テーマのもと、古来より人や自然など様々ないのちとの調和を図ってきた「文化・環境」、文化を土台に発展してきた「産業」「観光」「地域」の4分野が密接に連携・融合した取組を実施します。

京都の文化や産業の強み、観光資源をアピールし、府内各地へ人を呼び込む「ゲートウェイ」の「関西パビリオン京都ブース」やEXPOホールで、京都の良さ、京都らしさをどのように演出するか教えてください。

またJR京都駅周辺では、府内各地への誘客を促進する情報発信拠点や魅力発信ブースの設置などを予定していますが、どのように魅力を発信し、どんな工夫を考えているか、お聞かせください。

らい、自らの地域の魅力を再発見し、それらを発信することで京都への想いを深めてもらえます。学生を含む若年層の万博への参画についてどのようにお考えでしょうか。

【西脇隆俊知事】
関西パビリオン京都ブースは、国内外で活動されている彫刻家の名和晃平氏が伏見に創設したクリエイティブ・プラットフォーム「サンドウィッチ」による空間デザインです。伏見で1400年続く京瓦の伝統的な製法を受け継ぐ浅田製瓦工場と「サンドウィッチ」が共同開発した「キノノタイル」という京瓦タイルが床や壁面を覆い、着物の前合わせを連想させる独自のパターンが特徴。ブース内で投影する映像は、京都で撮影した異なる複数の素材を画面上に織りかさね「都市文化と自然」「伝統と革新」など、性質の異なる営みが共存する京都の魅力を表現します。この映像に、府内各地の豊かな自然環境、生活、産業から採取した音で構成される音響が重なり、京瓦の設えと一体となって、京都の未来と過去に向き合える空間を創出します。

また府内100を超える企業や団体に、展示を通じて京都の魅力を表



関西パビリオン京都ゾーンのイメージ。床から壁面まで浅田製瓦工場と共に開発した京瓦タイルで、株式会社青空の映像や、音楽家・原摩利彦氏による音響が加わる



「CHI-ZA KYOTO 一座きょうと」は府内各地の魅力や取組を発信。来場者と出展者が一体感を生み出すような実演や体験イベントを実施

現していただき、1週間ごとに展示を入れ替え、何度訪れても違う京都を発見できる工夫を凝らします。

EXPOホールでは、4月23日に「EXPO KYOTO MEETING」を開催し、京都の豊かな魅力を発信する5つのトークセッションを行い、これからの世界、人類、地球の在り方がどうあるべきかを京都から世界へ問いかけます。京都ブースと催事の双方で、京都ならではの設えや展示、メッセージの発信で、あらゆる角度から京都に関心を持っていただくことで京都ファンを増やし、府内各地への誘客へと繋げたいと考えています。

「京都駅周辺エリアまるごとゲートウェイ事業」では、京都の玄関口の京都駅に、府内の万博関連情報を発信する情報発信拠点を設置し、食や文化など京都の魅力を気軽に体験いただける魅力発信ブースを4月から併設します。これらの一体的な運営により、体験で膨らんだ利用者の「もっと深く体験したい」「実際に行ってみてじっくり見てみたい」といったニーズに対し、目的地までの交通手段の案内、地場産品の紹介、関連イベント情報の提供など、広がりのある提案を行い、ゲートウェイとしての役割を果たします。



関西パビリオン。灯籠をイメージした六角形で関西9府県が出展



大阪・関西万博に向けた京都の取組を紹介するイメージデザイン

京都府では、若年層の方々に万博を見るだけでなく、取組に参画していただき、未来の京都を担う人や企業、文化の育成につなげていきたいと考えています。これまでの取組は、京都芸術大学の学生による認証ロゴマークの制作、万博半年前機運醸成イベントでは、子ども記者によるきょうと推進委員会の山極座長へのインタビューなど、多くの若年層の方々と連携しました。

会期中には、関西パビリオン多目的エリアで、地元の子どもたちが参加する宇治田楽、京田辺の大住軍人舞といったステージパフォーマンスを実施するなど、若年層の方々が活躍する場を設けています。さらに府内では、KYOTO地球環境の殿堂で万博を契機に「自然環境と京都文化」をテーマに府内の高校生や大学生が殿堂入りされた方々と語り合う未来会議を開催。これらの取組が未来の京都を担う若者のかけがえのない経験になるよう引き続きサポートを行い、若者とともに創り上げる万博となるよう取組を進めていきます。

現役世代の健康増進が 長生きできる社会を実現

今、健康な方が自身の健康に関心を持つには

【田島祥充府議会議員】

「京あんしんネット」を活用した「専門医・多職種連携」によるネットワーク化・見える化事業で、糖尿病重症化予防対策に力を入れています。取り組みの成果、今後の課題を教えてください。また、企業等でバリバリ働く世代や学生の皆さんに、健康に関心を持つもらうために、必要な対策を講じることが、持続可能な



現役世代が健康に関心を持つことが大切（写真はイメージです）

社会保障制度にとって重要なことです。しかし、健康で医者いらずの生活を送る方たちが自身の健康に関心を持つには、インパクトのある工夫した広報・啓発が必要です。京都府は現役世代への健康増進の働きかけをどのように評価されていますか。そして、しっかりとしたエビデンス（根拠）に基づく対策を府と市町村が、企業や大学と連携した健康増進施策に取り組むことで、誰もが健康で、心豊かに生き生きと長生きできる社会の実現が可能であると私は考えますが、ご所見をお聞かせ下さい。

【井原正裕健康福祉部長】

2型糖尿病は、食べ過ぎや運動不足などが原因であるため、京都府は糖尿病性腎症重症化予防プログラムによる取組を市町村と進めています。医療機関の未受診者や受診中断者への受診勧奨、保健指導人材の育成に取り組み、府内では糖尿病で新たに人工透析を始めた患者数は、低下傾向にあります。

現役世代への働きかけは、各保健所で社員食堂のメニューの塩分濃度の測定や、健康・栄養に関する卓上

農林水産技術センターや 農業改良普及センター などの技術支援を

【田島祥充府議会議員】

肥料、農薬、燃料の価格上昇で農業経営は大変で、新しい農業技術の開発や導入の促進、農業のスマート化による肥料や農薬の使用量の抑制や省力化、付加価値を高めて収益性を上げるなどの取組などが必要です。これらの実現に向けた府の支援と対策についてお聞かせください。

近年の夏期の高温は農業に深刻な影響を与えており、農林水産技術センターや農業改良普及センターで高温に強い品種の導入実証に取り組み、

ポップの設置など、企業による従業員の食生活改善の取組を支援。また、スマホを活用したウオーキング事業「ある古つ都」を実施し、参加者も年々増加しています。

京都府では、市町村、医療保険者、企業等と健康長寿推進府民会議を組織し、保健、医療、介護のデータ分析から得られた市町村ごとの健康課

肥料や燃料が高騰。猛暑で 影響を受けた農家を支援

設備導入の支援も進んでいますが、その効果を教えてください。

【小瀬康行農林水産部長】

肥料や燃油の価格高騰で厳しい環境にある農業者に対し、生産コスト低減による府独自支援を行いました。府の畜産堆肥活用で化学肥料の使用量を2割低減する栽培体系を普及させ、省エネ機器の導入で燃油使用量の削減を進めるなど、生産性の高い経営へ移行を図っています。現在、農林水産技術センターで微生物を活用して作物の成長を促す「バイオ肥料」、熱源を電気に変えた「新型碾茶機」などの開発・実証を行っており、生産コストを大幅に削減できる新技術として現場実装に取り組みます。

題への取組を情報発信し、健康づくりを進めています。今後、現役世代が多く加入する協会けんぽなどの被用者保険、情報分析に強い大学、店舗数が多く発信力を持つコンビニと連携を強化し、高度なデータ分析に基づいた健康課題やその対策などを、若年層を含む幅広い世代に発信し、健康づくりに取り組んでいきます。



写真はイメージです